

三徳開教 110 年

平成 30 年

5 月号

No.583

法音



今月の
法話

仕事は仏さまから与えられる特別なもの

日蓮宗
法音寺





知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
 受けた恩に感謝しましょう。
 恩を忘れぬ人は信頼されます。
 今日一日、
 人に親切にしましょう。
 人が喜び、自分もうれしい。
 仏の教えは
 知恩報恩の人となることです。

月刊・法音

平成三十年五月号「583」

■目次■

【信仰の指針】^{ちめい}知命 あなたの役割は何ですか
 【朝のこない夜はない】

仕事は仏さまから与えられる特別なもの

山首 鈴木正修

- 御開山会が厳修されます 17
- 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください 18
- 御開山会のお知らせ 20
- 特別企画・聖の教え（二十九） 22
- とこのほの記 人として生を受けたのは「保釈」 38
- のりのね体験 いま・昔 42
- のりのとも 西に東に 転法輪・支院だより 46
- メールマガジンのお知らせ 75
- 福祉に生きる 昭徳会・特集 第10回 福祉実践発表会 76
- 福祉のひろば 児童養護施設の現場から「日常生活がもたらす安心感」 82
- 日本福祉大学災害ボランティアセンター 東北被災地での支援活動 84
- 賛助員ご芳名 86
- 幸せの種まき／編集後記 88
- 連載まんが・ひまわり・64 努力の結果 89
- 書籍のご紹介
- 法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま 書

表紙写真・ハナモモ

掲載写真

表紙・信仰の指針・3～17頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

知^ち命^{めい}

あなたの役割は何ですが

日教五



コデマリ



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

仕事は仏さまから与えられる

特別なもの

江戸時代に昌平坂学問所という幕府の学校がありました。ここは孔子の儒教を教える学校でした。孔子の生地である昌平郷にちなんで「昌平坂」と命名されました。

「昌平齋」とも言われます。その学校の総長に美濃国岩村藩出身の佐藤一斎という傑物がいました。佐藤一斎の随想録である『言志四録』は西郷隆盛の終生の愛読の書であったことが知られています。

近年、この佐藤一斎が俄に有名になったことがあります。小泉純一郎元総理が就任間もない頃、「教育関連法案」を審議中に佐藤一斎の『三学戒』の「少にして学べば、則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、則ち



老おいて衰おとろえず。老おいて学まなべば、則すなわち死しして朽くちず」にっ
いて述のべたことがきっかけです。また、小泉元総理こいずみもとそうりが外
務大臣むだいいんに任命にんめいした田中真紀子たなかまきこさんに「これを読よむといい」
と渡わたされたのが佐藤一斎さとういつさいの『重職心得箇条じゅうしやくしんていみえ かじょう』です。これ
は全部ぜんぶで十七箇条かじょうです。文章ぶんしょうとしてはむずかしいですが、
内容ないようはわかりやすいものです。重職じゅうしやくだけでなく、我々われわれに
もためになるような内容ないようです。一つ紹介しょうかいしておきます。
第五だいご条じょうです。

「機きに応おうずといふことがある。何なにによらず後あとから起おこる
ことはあらかじめ見みえるものである。その機きの動うごきを察さつ
して、拘泥こうていせずに処し理りせねば、後あとでとんと行き詰づまって
困こまるものである」

良よいことにも悪わるいことにも必かならず兆候ちやうこうがあるといふこと
です。悪わるい方ほうでいふと病びやう氣きがそうです。大病たいびやうの前まえには必かなら
ずその兆候ちやうこうがあります。事じ故こでも、大おおきな事じ故こが起おこる
前まえには必かならず兆候ちやうこうがあります。その兆候ちやうこうに鈍感どんかんな人ひとや、こ



だわりの強い人は兆候を見失ってしまいます。兆候を見失うと、後で二重三重に苦労をします。だから、兆候に敏感であるように、ということなのです。

ここからが本題です。佐藤一斎は『言志四録』の中で次のように述べています。「人は真剣に考える必要がある。天はなぜ自分をこの世に生み出し、何の用をさせようとしているのか。自分はすでに天より生じたものであるから必ず天から命じられた役目がある。その役目を謹んで果たさなければ必ず天より罰を受けるであろう。このように省察すると、うかうかと生きるべきではないことがわかる」

人間はこの世に生まれてきたら、必ず役目がある。その役目を果たさなければいけない。そう考えると、うかうか生きているわけにはいかない。

その通りだと思います。



人生の流れに身を委ねる

ヨガと瞑想に人生を捧げていたアメリカ人の実業家マ
イケル・シンガーという人が『サレンダー』という本を
書いています。サレンダーとは、身を任せる、とか、身
を委ねる、という意味です。この人は20代の頃、森の
中で一人で暮らし、自分が暮らせるだけのお金があれば
いい、という、本当に欲のない人でした。この人が、今
のままで自分の生き方はよいのだろうか。ヨガと瞑想に
明け暮れるだけの人生でよいのだろうか、と考えたので
す。そこで思いついたのがサレンダーです。自分がど
う生きるべきかはたぶん自分より人生そのものの方がよ
く知っているだろう。人生に身を任せてみよう、と考え
ました。それから「サレンダー・エクスペリメント（身を
委ねる実験）」が始まりました。これは簡単なことで
す。自分の好き嫌いを手放して、人生の流れに身を委



ねる。人から何か頼まれたら、それを断らない。大抵のことは引き受ける。そう決めたのです。そうすると人生の導く通りに生きられるだろうと思っただのです。

まず、知人から大学の非常勤講師を頼まれました。内心、ああ一番苦手なのがきたな。と思っただのですが

「はい、喜んでやります」とマイケルは言っただのです。

それから人生がどんどん変わっていくのです。紆余曲折はありましたが人生が良い方向に変わっていききました。

実験を始めてから30年後、マイケルは特に何も望んでいないのに2000人のスタッフを抱えるコンピュータ

会社のCEO（最高経営責任者）になっていたのです。

一人で暮らせるだけのお金があればよかった人が、求めずして、億万長者になったのです。

マイケルは「自己実現の道は瞑想以外にはないと信じていた。だが、それは間違っていた。人生は他人への奉仕を通して、自分自身を解き放つ方法を指南していた」



と言っています。マイケルの言う人生とは神であり、佐藤一斎の言う天であろうと思います。

神に呼ばれたシュバイツァー

世紀の偉人、アルベルト・シュバイツァーの話です。昔の偉人伝には必ずシュバイツァーが入っていました。私も子どもの頃に読みました。「密林の聖者」と呼ばれ、ノーベル平和賞を受賞しています。

シュバイツァーはお医者さんになる前は、神学博士、哲学博士として活躍していました。特にカント哲学に関する優れた業績もありました。そして、ヨーロッパ有数のオルガン奏者であり、バッハの研究者としても有名でした。

シュバイツァーは30歳になった時、赤道アフリカ地方での黒人の窮状を知って奉仕に一生を捧げるべく、医学



部に入ります。やがて、ランバレネの水と原生林のはざまに病院を建て、奉仕活動を始めたのです。シュバイツアーのオルガンの先生だったビドル先生は、「なぜ止めなかったのか」と回りから責められた時、言いました。「神さまが呼んでいるらしい。神さまが呼んでいるというのに、私が何をすることができようか」

少し遡ります。シュバイツアーの21歳の時の言葉です。「ある晴れた夏の朝、眼がさめたとき、私はこの幸福をあたりまえのこととして受け取ってはいけません。そのお返しとして何か与えなくてはいけない」という考えが浮かんだ。30歳までは学問と芸術のために生きてよいことにするが、それ以後は、人類への直接奉仕に身を捧げよう」と自分に對して約束した。その将来に計画された仕事の性質がどんなものであるかは、まだ私には明らかではないが、それは事の成り行きが導いてくれるに任せ



シユバイツァーは28歳の頃から具体的に何をしたらよいかを探り始めました。孤児の世話や免囚保護事業などを試みましたが、なかなかこれだと思いう仕事に出会えませんでした。しかし、30歳の時に運命的な出会いがあったのです。

ある日のこと、新聞を見ると教会の呼び掛ける「コンゴ医療伝道」の募集記事がありました。

「主の呼び掛けに対して『私が参ります』と、単純に答えられる男女を教会は必要としています」

シユバイツァーはこれを見て「私は静かに自分の仕事を始めた。模索は終わった」と言っています。この後、シユバイツァーは医学部に進み、生涯「医療伝道」の道を歩んだのです。

シユバイツァーは言っています。

「自分の仕事で世の中に貢献することは非常に大事です。しかし、もう一つ上のことを考えると、いつも直接に



奉仕したい」という思いを持っていることがもつと大事なんです」

仕事のことを英語では「calling」と言います。「神に呼ばれる」「神に呼び出される」という意味です。我々も日々の仕事を「calling」の意識で行うべきかもしれません。

国境なき医師団。ポー・フェイさんの話

もう一人お医者さんの話をします。皆さん国境なき医師団をご存じだと思います。世界の紛争地域、貧困地域において、ほぼ無償で働くお医者さん達です。私はどきどき寄付をさせていたのですが、寄付をすると領収書とともにお礼状が届きます。

ある時のお礼状に、マレーシアに住む中国人女性の小児科医、ウォン・ポー・フェイさんの文章が載っています。



した。

「私は家族を重んじ、きちんとした教育を受けることを良しとするマレーシアの中国人家庭に生まれました。私が育ったコミュニティでは、大半の親は子どもが医者や弁護士になり、成功と呼ばれるような人生を送ることを期待するため、医学を志した私は両親にとって自慢の娘だったと思います」

ある日の昼食時、国境なき医師団から連絡が来ました。お母さんは驚き、どういうことかとポー・フェイさんに聞いてきました。

「私がお医者さんになったのは、医療を必要としている貧しい人々に援助をしたいと思つてのことなの。私は以前から国境なき医師団に登録していたの。医師になつたらすぐに派遣してくださいと……」

これも「神の呼び掛け」だと思えます。そして、お医者さんになってすぐ連絡がきたのです。それがシユバイ



ツァーと同じアフリカでした。西アフリカのシエラレオネという国です。内戦がずっと続いていて、一時期ニュースでよく流れていました。そして、近年はエボラ出血熱が蔓延していることで有名です。「そこへ行ってくれないか」と、お医者さんになったばかりの女の子に国境なき医師団は打診してきましたのです。ポー・フェイさんはこの神の呼び掛けに対して「はい」と答え、シエラレオネへむかったのです。

両親は地球の反対側にいる娘を、来る日も来る日も気づかい続けました。そして幸いにも無事帰国することができました。両親がほっと胸をなで下ろしたのも束の間、今度は2カ月後にアフガニスタンでの活動が決まりました。この時の両親の反応は驚く程静かで、寡黙なお父さんが次のように言われたそうです。

「いつか自分の一生が走馬灯のようによみがえる日が来る。その時に振り返るに足る人生にしなさい」



この後、ポー・フェイさんはアフガニスタンからも無事帰国されました。

日本の救世主になってください

今から7年前、東日本大震災の際、2011年3月12日に東京電力の福島第一原子力発電所の一号機が爆発を起こしました。日本が終わるのではないかと恐れられた方もあると思います。あの時にあのまま爆発が続き、格納容器が爆発していたら日本は本当に終わっていたかもしれません。

当時の吉田昌郎所長の言葉です。

「格納容器が爆発すると、放射能が飛散し放射線レベルが近づけないものになってしまふんです。最大を考えれば、チェルノブイリ×10という数字が出ます。だからこそ、現場の部下達の凄さを思うんですよ。それを防ぐた



めに、最後まで部下達が突入を繰り返してくれたこと、
そして、命を顧みずに駆けつけてくれた自衛隊をはじめ、
沢山の人の勇気を称えたいんです」

吉田所長の決断のもとに入れ続けた水が、最後の最後
でついに原子炉の暴走を止めたのです。最初に、日本の
ために命がけで海水を注入しに原発の中に入っていった
のが、福島原発職員の50人です。外国のメディアがこの
50人のうちの一人にインタビューをしました。「よくあ
の中に入っていきましたね。怖くなかったのですか」と
聞くと「死ぬことは全く恐れていませんでした。これが
我々の仕事ですから」という答えでした。彼らのことは
「福島ファイフティ」として世界中に報道されました。
しかし、なかなか鎮火しませんでした。自衛隊も決死
の覚悟で上空からヘリコプターで水をかけました。そし
て、「陸路から原発に誰かいけないか」という呼び掛け
に対して、東京消防庁ハイパーレスキュー部隊の隊長、



佐藤康雄さんが「私達が行きましよ」と返事をしました。佐藤さんは3週間後に定年退職を控えていました。その人が、自分が隊長となって原発に向かったのです。消火活動後に佐藤さんはマスコミのインタビューを受けました。

「現場に向かうことを家族や奥さまは反対されませんでしたか」

佐藤さんはこう言われました。

「実は出勤前、家内にメールを送ったのです。『千年に一度の大災害が起こった。現地で指揮を執ってくる』と。家内からは『わかりました。日本の救世主になってください』と返事が届きました」

日本のために、原子炉の暴走を止めた勇気ある人達、まさしく「calling」、日本の神々から呼ばれた人達であると思います。



御開山会が5月13日(日)、20日(日)、6月3日(日)の三日間にわたって開催されます。

今年には三徳開教百十年・顕修院日達上人第七回忌を迎え、記念の天童音楽大法要が行われます。
三先師・日達上人さまの御前にて三徳実行のお誓いをいたしましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

京都支院	5月9日(水)	開基堂	5月10日(木)
笠松布教所	5月12日(土)	福山支院	5月19日(土)
静岡支院	5月22日(火)		

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	6日・12日・26日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	6日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	6日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	4日・12日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0568)72-7208
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	4日・14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・12日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3933
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・12日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	1日・11日・21日	伊賀市上野向島町3475	

☎ご連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・19日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	1日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	6日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	19日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	6日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	12日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	6日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	6日・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・19日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	12日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	5日・13日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	19日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	6日・27日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	工事により休止	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	14日・27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

御開山会



ご参詣のお供に

平成30年 御開山会

三徳開教百十年

顕修院日達上人第七回忌

御報恩法要

三徳開教百十年・顕修院日達上人第七回忌を
迎えるにあたり、

記念の天童音楽大法要を虔修いたします。

当日は稚児行列やバザー等を実施し、
本堂では過去の貴重な映像をご覧いただく等、
種々の催しを行うことが予定されております。

期日…平成30年5月13日(日)

5月20日(日)

6月3日(日)

皆さまのご参詣を心よりお待ち申し上げます。

大乘山 法音寺

皆さんの作品を募集します

三徳開教百十年を迎え、来る御開山会の特集を
『法音8月号・586』誌上で予定しております。
つきましては、左記の通り特集に掲載する作品
を募集いたします。ぜひ奮ってご応募ください。

記

- 一、 参詣された方の感想文
- 一、 稚児行列に参加された子どもさんの作文、
または絵
- 一、 お稚児さんの保護者の方が撮影された
お子さんの写真
- 一、 ご奉仕された方の感想文

☆募集方法

作品に、所属・氏名・年齢(学年)をご記入の上、
各支院・布教所へお申し込みください。

☆申込締切

平成30年6月27日(水) 法音寺・広報委員会必着

特別企画

聖の教え

(二十九)

正定聚〔皆共成仏道〕

〃法説く人はほとけにむかうごと

敬い奉れいつの代までも〃

御開山上人御詠

◆経典

◆慚愧清淨にして、佛道を志求する者あらば、當に是の如き等の爲に、廣く一乗の道を讃むべし。

妙法蓮華經・方便品 八二頁

◆吾が滅後の惡世に、能く是の經を持たん者をば、當に合掌し禮敬して、世尊に供養するが如くすべし。上饌衆の甘美、及び種種の衣服をもつて、是の佛子に供養して、須臾も聞くことを得んと冀うべし。若し能く後の世に於て、是の經を受持せん者は、我遣わして人中にあらしめて、如來の事を行ぜしむるなり。

妙法蓮華經・法師品 二〇五頁

◇佛、普賢菩薩に告げたまわく、若し善男子・善女人、四法を成就せば如來の滅後に於て當に是の法華經を得べし。一には諸佛に護念せらるることを爲、二には諸の徳本を植え、三には正定聚に入り、四には一切衆生を救うの心を發せるなり。善男子・善女人、是の如く四法を成就せば、如來の滅後に於て必ず是の經を得ん。

妙法蓮華經・普賢菩薩勸發品 三八二頁

◇若し是の經典を受持せん者を見ては、當に起つて遠く迎うべきこと、當に佛を敬うが如くすべし。

妙法蓮華經・普賢菩薩勸發品 三八九頁

◆遺文

◇法師品には『人ありて八十億劫の間、無量の寶を盡して佛を供養し奉らん功德よりも、法華經を説かん僧を供養して後に、須臾の間も此經の法門を聽聞することあらば、我大なる利益功德を得べしと悦ぶべし』と見えたり。無智の者は此經を説く者に使われて功德を得べし。何なる鬼畜なり共法華經の一偈一句をも説かん者をば、『當起遠迎當如敬佛』の道理なれば、佛の如く互に敬うべし。

松野殿御返事 一四八一頁

◇心の師とはなるとも心を師とせざれとは六波羅蜜經の文なり。設い如何なる煩わしき事あり

とも夢になして、只法華經の事のみさわぐらせ給つべし。

兄弟鈔 一一五一頁

◇一人の心なれども二の心あれば、其の心たがいて成ずる事なし。百人千人なれども一つ心なれば、必ず一事を成ず。日本國の人人は多人なれども異體異心なれば諸事成ぜん事かたし。日蓮が人類は異體同心なれば、人人少く候えども、大事を成じて一定法華經弘まりなんと覺えて候。惡は多けれども一善にかつ事なし。譬えば多くの火あつまれども一水には消えぬ。此の門も又かくの如し。

異體同心の事 一〇六四頁

◇ただ心こそ大切なれ。いかに日蓮祈り申すとも不信ならば、濡れたるほくちに火を打ちかくるが如くなるべし。勵みをなして強盛に信力をいだし給つべし。

四條金吾殿御返事 一八〇三頁

◇檀那と師と思ひ合はぬ祈りは、水の上に火を焚くが如し。又檀那と師と思ひあいて候えども、大法を小法を以て犯せしこと、年久しき人人の御祈りは叶い候わぬ上、我が身も檀那も亡び候なり。

四條金吾殿御返事 一五〇二頁

◇我が弟子と名乗らん人人は、一人も臆し思わるべからず。親を思い、妻子を思い、所領を顧ることなかれ。無量劫よりこのかた、親子の爲、所領の爲に命を捨てたる事は大地微塵より多し。法華經の故には未だ一度も捨てず。法華經をば若干行ぜしかども、かかる事出来せしかば、退轉して止みにき。譬えば湯をわかして水に入れ、火を切るに遂げざるが如し。各々思い切り給え。此の身を法華經に替うるは、石に金を替え糞に米を替うるなり。佛滅後二千二百二十餘年が間、迦葉・阿難等、馬鳴・龍樹等、南岳・天台等、妙樂・傳教等だにも未だ弘め給わざる法華經の肝心、諸佛の眼目たる妙法蓮華經の五字、末法の始めに一闍浮提に弘まらせ給うべき瑞相に曰蓮魁したり。わとう共二陣三陣つづいて、迦葉・阿難にも勝れ、天台・傳教にも超えよかし。僅かの小島の主等が威嚇さんに恐れては、閻魔王の責をばいかがすべき。佛の御使と名乗ながら、臆せんことは無下の人人なりと申し含めぬ。

種種御振舞御書 一三六五頁

◇我が門家は夜は眠りを斷ち、晝は暇を止めて之を案ぜよ、一生空しく過して萬歲悔ゆる事勿れ。

富木殿御書 一二九五頁

◇釋迦如來の御爲には、提婆達多こそ第一の善知識よ。今の世間を見るに、人を善く成す者は、方人よりも強敵が人をば善く成しけるなり、眼前に見えたり。

種種御振舞御書 一三七四頁

◇願わくは我が弟子等は師子王の子となりて、群猿に笑わるる事なかれ。過去遠劫より已來日蓮が如く身命を捨てて強敵の科をつく師子は値いがたかるべし。國王の責めなををぢべし、いおうや閻魔の責めをや。日本國の責めは水の如し、濡るるをおそるる事なかれ。閻魔の責めは火の如し、裸にして入ると思え。

師子王御書 二二三六頁

◇總じて予が弟子等は、我が如く正理を修行し給え。智者學匠の身となりても、地獄に墮ちて何の詮かあるべき。

十八圓滿鈔 一九一六頁

◇返す返す今に忘れぬ事は、頸切られんとせし時、殿は供して馬の口に付きて泣き悲み給いしをば、いかなる世にか忘れなん。設い殿の罪深くして地獄に入り給わば、日蓮をいかに佛になさんと釋迦佛こしらえさせ給うとも、用い參らせ候べからず、同じく地獄なるべし。日蓮と殿と共に地獄に入るならば、釋迦佛・法華經も地獄にこそ在しませざらめ。暗に月の入るが如く、湯に水を入るるが如く、氷に火をたくが如く、日輪に暗を投ぐるが如くこそ候わんずれ。

崇峻天皇御書（四條鈔） 一五八八頁

◇一切衆生南無妙法蓮華經と唱うるより外の遊樂なきなり。經に云く、『衆生の遊樂する所』

云云。此の文豈自受法樂にあらずや。衆生の内に貴殿漏れ給うべきや。所とは一閻浮提なり、日本國は閻浮提の内なり。遊樂とは我等が色心依正ともに一念三千自受用身の佛にあらざるや。法華經を持ち奉るより外に遊樂はなし。『現世安穩、後生善處』とは是なり。ただ世間の留難來るとも、取りあい給うべからず。賢人聖人も此の事は脱れず。ただ女房と酒うち飲みて南無妙法蓮華經と唱え給え。苦をば苦と悟り樂をば樂と開き、苦樂ともに思い合せて南無妙法蓮華經とうち唱え居させ給え。これあに自受法樂にあらずや。いよいよ強盛の信力を致し給え。

四條金吾殿御返事 一四〇七頁

◆安立大法尼

富み栄ゆる道 幸いなるかな、皆様方がこの仏道修養をせらるることは、誠に仏の仰せの如く、過去百千万億の菩薩を教化せられたる深徳の方々に外ならぬのであります、人と生まれてこの上もなき本懐であります。皆様方を常々、善男子・善女人と合掌する所以は、これでありませす。

しかし、凡夫の菩提心はとかく悪縁に誑されて、ことに触れて移りやすく、「魚の子は多かれ共魚と成るは少く、菴羅樹の花は多く咲け共果に成るは少し」（松野殿御返事）との日蓮聖人のお言葉の如く、一旦この道に入っても、ことに触れて迷いやすいのであります。受け難き

人身を受け、尊き法に会いながら、これを信ずるの機会を得ず、迷夢の中に一生を送り、病魔に苦しめられ、あるいは災難に触れて一生を終わらば、誠に「宝の山に入りながら手を空しくして帰るが如し」(正法念経)であります。その時に到りて如何ほど悔ゆるとも、取りかえきません。聖人曰く、「魚は命を惜む故に、池に栖むに池の浅き事を嘆いて、池の底に穴を掘りて栖む。然れども餌にばかされて釣を呑む。鳥は木に栖む。木の低き事を怖ちて、木の上枝に栖む。然れども餌にばかされて網に懸る。人も又是の如し」(佐渡御書)と。

皆様は、魚や鳥のように餌にばかされて迷わぬように、この大法に依って人に依らず、善悪を識別してお進みください。人の一命は風前の灯火の如く、朝日に向かえる露の如くであります。この儚き一生の間に、ただ、迷・悟の二字を以って幸と不幸の別を生じ、大いなる懸隔を来すのであります。

せっかく受け難き人界に生を受け、悟れば如何なる悪因縁をも消滅して善果を得べきものを、迷いの一字のために、功德も積まずして平々凡々と暮らすのみか、僅かの善根を滅して却って悪因を増すは、嘆かわしき極みとも、恐ろしき極みであります。この理を熟考せられて、行住坐臥、南無妙法蓮華経と唱えてください。堪忍して功德を積んでください。きつと、災難も未然に防ぐことができます。病氣も起こりません。長寿を保つこともできます。何か良いことは無いかと言わずとも、段々運も良くなつて、富み栄ゆるのであります。

これは一個人のことでありますが、本会は、昨年この功德を積んで一般の大難、即ち、暴風の被害を逃れしむることに成功しました。ある人は、我が国は神国であるから、イザという場合には神仏を念ずれば必ず靈験がある、と申されますが、一個人の災難が一個人の罪障である如く、国家的災難は、一般国民の思想の悪化によって来る悪果であります。一般国民がこれに目覚めて精神修養せなければ、神仏と雖もどうして守護ができませんよう。常に準備をして、事ある時に靈験を表わすよう功德を積んでおくことが、最も肝要であります。

本会はこの準備のために、陰ながら大いに努力するのであります。しかし、これも少人数の者の力では到底及ばざることですから、皆様方も揃って自分の修養に努力せらるると共に、修養者を一人も多く作ってください。諸仏・世尊に対し奉る万分のご報恩は、これに過ぎたるはないのであります。だれかれ問わず、精神修養に努力していただきたいのであります。

始祖・御法話集 一〇九頁

◆宗玄大徳

結果の良くなるように 人という字は二本の棒が互いにもたれ合っています。どちらか一本倒るれば両方が立ちません。それ故私は、常に他の人々を尊敬致します。世の中の人々に対して感謝しています。私が法話を申しあげましても、人々が聞いてくださればこそ功德が積ませて

頂けるのです。また、世の中の人々は常に試練してくださいと忘れたことがあります。せん。そのように考えますと、一切衆生は皆私のために働いてくださるかと思われれます。講演を致します時、私は必ず皆さんに向かつてお題目を三唱致しますが、これは、皆さんに感謝の意味で礼拝させて頂くのです。なおまた、この法を聞いてくださる方はみな仏と成られる尊い方であるから、その仏性に対して礼拝するのであります。一切の人々は皆、私の師であり、私に徳を積ませてくださる親ですもの、どうして拝さずにおられましょう。

人を助け導くということは、この報恩の一端であり、自己を立たしめる基であります。それは私の立場ばかりでなく、お金儲けの場合でも同じです。相手の人々の恩恵に因って自分が儲かります。それに、相手を倒すようなことをしてどうして自分が立ちましようか。人という二本の棒の一本を外したような結果と成りますから、これがそもそも間違いだと思ひます。生存競争というも商業戦略というも、みな相手の人を倒す考えや心遣いではありますまいか。その考え方ははたして、二本の棒の一本を外したと同じであらうと思ひます。

何事でもすべて、結果のよくなることを考えて行なうを仏智とも実智とも申し、結果の悪いことを知らずしてなす者は愚か者と申します。世のためになるとか、徳を積むとか申しまして、相手の人を倒しては徳が積めません。徳を積むということは、相手の人を立てるようになり、喜ばせるようにしてこそ初めて徳が積ませてもらえまして、自己も立つということになります。

それは、持ちつ持たれつ人という字のその如く、相手と自己と相結合して初めて両方共に倒れざるが真理であります。

村上先生御法話集(二) 一三七頁

◆御開山上人

仏となる因縁のこと 皆さんと私が、現在この法華經を習いまして楽しい生活に進めてゆくと
いうことは、ずっと前の世からの深い因縁があつてしているのであるということが、法華經に
説かれていきます。

「是の本因縁を以て、今法華經を説いて、汝をして仏道に入らしむ。慎んで驚懼を懐くこと勿
れ」(化城喩品)

あなた方と私とは現在だけの縁ではない。前の世からこういう因縁があるから、今ここで法
華經を説き、あなた方がそれを学び、すべて世の中の人々を教え導くような力をそなえるよう
にしてやるのである。かような考えで教えを説いているのであるから、驚いたり、懼れたりす
る心持ちを持つてはいけない。仏と自分とは段がちがうものだとか、仏に成れるものではない
という臆病の心持ちをおこしてはならない。必ず仏になるのですよ。世の中の人々を教え導く
人が仏なのですよ。

このように仏はおっしゃっていられるのであります。私たち縁あつて法華經を聞く者は、一

人でも多くの人々にこの御法を聞かせて、共々に仏になるように励まねばなりません。

御開山上人御遺稿集 一五頁

◆日達上人

善知識 この世の中、何事もうまくゆくのはよいことです。しかし、あまりうまくゆくのも考
えものです。何も心配することがないと人間はボーツとなってしまいます。困ったことに出く
わせばそこで考え、堪忍しよう。徳を積もう、という契機になります。

生まれつき幸せで、何の苦勞もなく育ったという人は、逆に言うとな当の樂しみ・喜びを知
らない人も知れません。苦しみがあるから喜びが生きてくるのです。悩みのないという人は、
実は本當の喜びを知らない、つまり、喜びの中にあっても喜びを知らないと言えます。

お釈迦さまは提婆達多を「善知識」と言われました。善知識とは「善い友だち」ということ
です。

善い友だちといえは、自分を助けてくれる人。力になってくれる人、と思えますが、自分
に辛く当たる人、意地悪くする人も本當は善知識なのです。

なぜそんな人が、と思えますが、その人によって自分が向上することができるところからです。
苦しい目に遭わされて、そこでクシヤンとなつてしまつたらそれまでです。しかし、そこを

の
乗り越えてもう一段上の人生を送ることができれば、その人のおかげでということになります。人間は、辛い目に遭い、苦ししいことを乗り越えることによっていつも成長できるのです。

『月刊法音』第三二六号 八頁

善い友を持つことは聖なる道のすべて

雑阿含経に、阿難尊者がお釈迦さまに教えを請う場面

があります。

「世尊、私は近頃このように思います。善い友を持つということは、聖なる道を半分くらい成し遂げたくらい尊いことだと思えますが、いかがでしょう」

「阿難よ、そういう考えは充分ではない。善い友を持つことは聖なる道のすべてである」

善い友とは、私が悲しみに暮れている時、心の底から私と共に泣いてくれる人、私に喜びがある時、本当に喜びを分かちあってくくれる人です。

『月刊法音』第三二七号 一五頁

心の師となる

「すべては自分の心から起こる」とお釈迦さまはおっしゃいます。たしかにそ

う思われることはたくさんあります。子どもの頃は余り心配事もなく、悩みも小さなものでしたが、ある程度の年になると、次から次に、いろいろな悩みが出てきます。

日蓮聖人は「心の師とはなるとも心を師とせざれ」とおっしゃいました。心を自分が制御

すればいいけれど、心のままに動いていたら大変なことになるよ」と言われるのです。

心の状態は一人ひとり異なります。また、自分の心でも朝昼晩、次々に変化します。その心に引きずられていきるときりがなくということなのです。

心を制御するには、徳を積んでゆかないといけません。目の前のことばかり気にして心配事を増やしているのが、私共の心です。

『月刊法音』第四一八号 五頁

心願成就の道 仏力・法力・信力の和合 神社・仏閣に参拝することは、何か「ご利益」を願ってするものですが、しかし、ただ単にお参りするだけでいいのでしょうか。願いが成就するために、仏力・法力・信力の三方が和合しなければなりません。

「仏力」とは、神・仏の持つみえる徳や力です。日本には昔から「八百万の神」と言われますように、大変大勢の神さまがみえます。仏さまも「十方分身の仏」とありますように、とても大勢おられます。そうした中、本当に頼りとできる神さま・仏さまはどなたなのかを探し出すことがまず大切です。

たとえばお稲荷さんですが、本々の因縁をご存知の方は少ないでしょう。お稲荷さんは本来、豊作の神さまです。また、讃岐の金比羅さんのご神体はワニであります。ここは河川・航海の安全を祈る所です。このように神さま・仏さまにもそれぞれ「専門分野」があるわけです。

それを場違いなお願いをしても効き目はないように思うのですがいかがでしょう。また、いかに神さま・仏さまといえど、苦しい時だけ、それも突然頼まれてもさぞ困られると思います。私共もそうでしょう。見ず知らずの人にいきなり「金を貸してくれ」と言われても困ります。神仏と人間を同じに考えてはいけません、しかし、いくら相手が神さま・仏さまとはいえ、節度は必要だと思っております。

「法力」は、神さま・仏さまの持つてみえる力と、お願いをする人の信力が感応して生ずる力です。

「信力」は、その人の持つている信心が、日頃の行ないに生かされているところに生ずるものです。

平生、夫婦げんかはする、人がいかに困ろうとお構いなく自分勝手ばかりをする、そして、いざ困ったからと言って「あそこのお宮さんが有名だ」「こちらのお寺は評判がいい」と行ってみたところで、はたしてどうでしょう。その仏さま・神さまが願う事の「専門家」であるかどうかわかりませんし、たとえ専門だったとしても、自分の行ないを棚に上げておいて「こうしてくれ」「ああしてほしい」では、横を向いてしまわれるかも知れません。

そうではなく、仏さまの方で、頼まれたら聞かざるを得ないような行ない、もつと言えは、仏さまの方が「何かしてあげようか」と言われるような「信力」を養っておかなければなりま

せん。それを「徳の力」と言うのであります。

お守りの力 自動車のお守りについて考えてみましょう。この近所ですと皆さん、成田山へよく行かれます。そして、何がしかのお金を出してお守りを頂かれますが、そのお守りを持っていさえすれば交通事故に遭わないと思っっているとしたら、大間違いです。

自動車のお守りに限らず総じて「お札」というものは、その物自体、はつきり言っただけの意味もありません。木っ葉の切れ端と言っでもいいでしょう。その木切れに本来の威力を發揮して頂くには、その神社・仏閣の教えを実行してゆかなければなりません。そうして初めて、効き目もあるわけです。

法音寺でもいろいろなお守りを出しておりますが、やはり同じです。法音寺のお守りを頂かれた方は、それを見るたびにことに慈悲・至誠・堪忍の教えを思い出し、実行に移して頂きたいのです。三徳の心が常に具わってあれば、うしろから来た車に追い越されたからといってカーツとしないでしょうし、無理な運転はできなくなるでしょう。そうなれば自然に、事故は避けられる筈です。

一事が万事そのようにして頂くならば、そのお守りは木切れではなくなり、大変大きな意味を生じてゆくのであります。

真の参拝 わけもわからずお寺参りをして、それでご利益が得られると思っっている人の多い世

の中ですが、杉山先生からみ教えを頂いている私共は考えを改めなければなりません。先生は「困った時の神頼み式の信仰では救われなから、常に功德を積んでゆきなさい。そうしてゆくなら、困ったことが起きたからといっていちいちお願いに行かなくても、仏さまの方から救いの手を差し伸べてくださる」とお教えくださっているのです。『月刊法音』第一六七号 五頁

仏さまとのお縁 講日や法座にお参りするのは、仏さまにお会いすることと同じですから、何かお願いすると、あなたはよくお参りされていますね」と、顔を覚えていてくださって、聞いて頂きやすいのではないかと思います。仏さまと縁をつなぐためにも参詣されるのはいいことです。仏さまは、お前なんか知らない」とはおっしゃいませんが、やはり縁は大切にしたい方がいいと思います。

大白牛車・8 三九三頁

注1 四法 法華経安楽行品に示される四安楽行（身・口・意・誓願）のこと。

注2 正定聚 覚りまで退転なく進んでやまぬ菩薩に仲間入りすること。仏道不退の菩薩の仲間。

とこののはの記

三徳開教百年 特別企画
安立大法尼の教え

④

人として生を受けたのは「保釈」

お釈迦さまの教えは、世の人々の苦しみを取り除き、
変わることをない、本当の幸せを与えようとするもので
す。ですから、災難を防ぎ、日々を穏やかに暮らしたい
と望まれる方々は、仏道の羅針盤にしたがってお進みく
ださい。必ず悟りの世界、真の喜びの世界へ到達するこ
とができます。

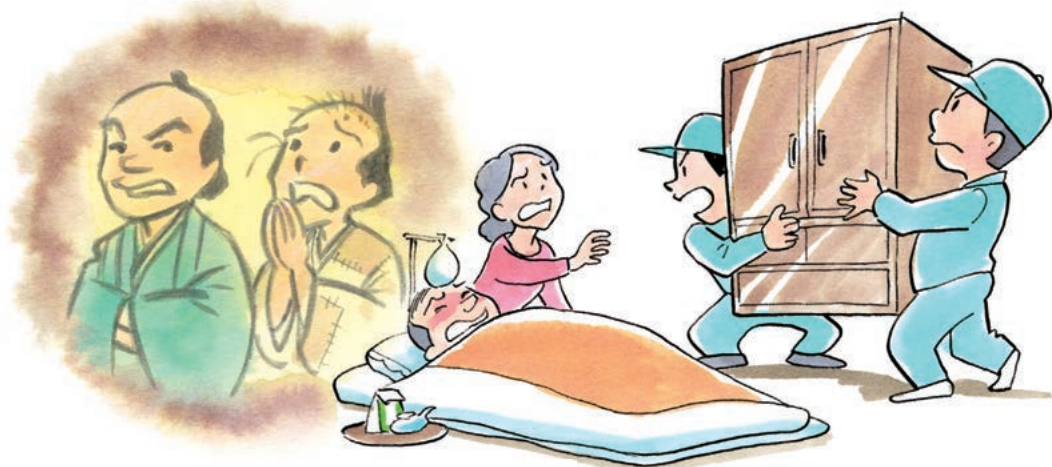
世の中の苦しみや災厄は「因縁」によって生じるので



す。腹を立てることが多ければ「地獄の種まき」であり、貪りは「餓鬼道の種まき」、自分さえよければ他人はど
うなろうとかまわないという心で、いつも愚痴ばかり言
うのは「畜生道の種まき」です。

特に悪いことをしたわけでもないのに、職を失い、ま
た財産を横領され、病気になって一生を終わる人もいま
す。こういうことは、過去世に自分が重ねた罪が原因な
のです。罪が解消されなのまま人間として生を受けた状
態を「保釈」と言います。物事が思うようにならず、災
難続きの人は、〴〵自分は保釈の身なのだ〴〵と自覚して、
行いを慎み、善根功徳を積み、必ず過去世の罪は次第
に消滅して、幸福がやって来ます。

これを自覚せずに、世を儚み、人を憎み、恨み、さら



に貪りを続けければ、現世の悪因と過去の悪因が重なり、さらに苦しむことになります。

皆さんのように、善いことをしたい[♪]と思われる方々は、お釈迦さまが「本化菩薩」と仰せられた、徳の高い方々なのです。過去世で徳を積まれたからこそ、人として生を受けた今も、人から仰がれるようになられたのです。過去世でたくさん徳を積まれましたが、貪り・瞋り・愚痴によって、悪因も作られたので、それが今日の災いを引き起こす原因となっているのです。しかし、その罪も、皆さまが「本化菩薩」であるがゆえに、「保釈」として、また人界に生を受けることができたのです。

皆さん、「自分は保釈の身」と悟って、油断せず、妙法の修養に努力してください。この悟りこそ一生の幸・



不幸の分岐点です。これを悟れば、尊い人生を有意義に暮らすことができます。

日蓮聖人が、「天晴れぬれば地明らかなり。法華を識る者は世法を得べきか」（観心本尊鈔）と言われるように、この理を知って暮らす人は処世の道を得た人ですから、必ず明るい気分で暮らすことができるのです。

慈悲・至誠・堪忍を心の守りとして、常に妙法蓮華經をお唱えください。悪業の因縁を断ち切って初めて、お互いの徳を發揮することができます。

また、人として生を受けたこと自体すでに徳があるにもかかわらず、善悪を識別できず困っている人達がいまいます。どうか、一人でも多くの人に妙法を伝え、善道に導いてください。



のりのね体験

いま・昔

“自分は善い。人が悪い” は大きな誤り

谷口 にはの（昭和14年6月 樹徳42号）

私が三徳の修養をするようになってから目に見えてありがたいと思えますのは、私のような者に對しても皆さんが親切にしてくださいとくださるということです。

先日、商売をしています関係上、名古屋の方に行っておりましたが、お盆でもあるし、久しぶりに旭村の宅の方に帰ってまいりますと、近所の人々が「よく帰っていらっしやったネ。お盆のお仕度は大変なことでしょう。何かお手伝いいたしましょう」と言われ、いろいろな必要なものをくださいました。そして「お掃除もお手伝いしましょう」と申してくださいました。私はこの皆さんのご親切がうれしくて泣けてなりません。以前の私であったならば、誰がこんなに優しくしてくださいさるでしょう。

かつて私の友人から「あなたは心ではそんなに思っていないなくても、あなたの言葉は人の心にとっても強く当たるので、実際上いつも五割がた損をしています」と聞かされたことがあります。

事実その通りで、私は素直ではなく意固地だったのです。例えば、人とはなんという嫌な根性だろう。私が家庭を持った当時は一人として関わってくれた人はいないのに、私達が少し金をもって暮らすようになると、今まで寄りつかなかった人までが寄ってくる。あれは何か欲しいから来る

のだ。いやらしい、誰がやるもんか。それで人が嫌って交際してくれなかったら、交際してもらわなくてもよい。金さえあればどこへ行つたつて暮らせるんだ」と、こんな風でしたから、人に対して愛想がない。言葉が強い。だから人からは敬遠されていました。今から思えば、たしかに「悪因」です。「悪因悪果、善因善果」。人から嫌みを言われたり、憎まれたりするのも結局はこうした報いなのです。

私は、過去・未来ということは今までは夢の世界でのことのように思っておりましたが、この修養の道に入れていただいてからというもの、諸先生からよく因果応報のお話をお聴きし、過去とは私の生まれる以前ばかりではなく、十年昔、二十年昔、いや昨日のこと、さては今こうしている間も、だんだんと過去となりつつあるのだ、ということを知りました。

私は随分と人には嫌なことも言われました。腹の立つようなこともされてきました。その都度私は、ああ嫌なことだ。どうしてあの人はあんな悪いことを私にするのだろうか」と天地も顛倒するほど怒ったりもしました。それがこの三徳の修養のお話を聴いてみると、「過去の因」とのことです。お話を聴いた当初は、そんなバカなこと」と思いましたが、それでも三徳を実行していくうちに、まず自分の欠点に気がついたのです。私は意固地だった。無愛想だった。現在私が人にどのような言われ、どう見られているかと思うと、冷や水を浴びたような気がいたしました。自分は善い人が悪いのだ」と思ったのは大きな誤りで、自分の過去の報いを知らねばなりませんでした。

それからというもの、私は一生懸命に三徳の修養に励みました。堪忍はもとより、人には愛想良く迎え、言葉も親切に心掛けました。

やはり因果応報ということは真理でありました。前述のように、私のような者にでも人は親切に

してくださいませ。人に憎まれて暮らすよりも、人に愛されて生活した方がどれ程楽しく、うれしいことかしれません。

私はなお一層努力する決心しております。

〴〵おくづきに もうでる友のまごころは かがやく月にまけずおとらず〴〵

感謝でいっぱいです

亀岡布教所 田中 節子（平成29年 信教師会報第48号）

私の長男は、ちょっとしたことがきっかけとなり13年間ひきこもっておりました。最初の頃は〴〵何と外に出てくれないだろうか。友人と接点をもってくれないだろうか〴〵と焦る気持ちで一杯でした。でも、そんな思いとは裏腹に1年、2年と過ぎて行く日々でした。

そんな頃、亀岡に住む主人の弟の家で月に一度法座を続けていました。そこに来られていた信教師の方より、引越して空家になっている亀岡の私達の家を法座場所として使わせていただきたいとお話がありました。主人も姑も快く承諾して、毎月一度のご法座を開かせていただくことになりました。信教師の方、皆さんのお力により少しずつお参りの人も増えていきました。

家に居て目標のない長男を見る日々。ひきこもっている長男に何とか少しでも徳積みをしてほしいと願う一心で、短冊1枚のお題目を書くように勧めてみました。すると長男は素直に書いてくれました。その後、時間をかけながらやっと毎日1枚の写経と、米題目1合をかかさず続けてくれるようになりました。1日1合の米題目は法座にこられた皆さんへお配りさせていただきました。そんな日々が何年か続いた頃、少しずつですが、夜に犬の散歩へ行ってくれるようになりました。

次第に、家にいる長男に家族は普通に接してくれるようになりました。姑はいつも温かく長男を見守ってくれました。最初の頃はむずかしかった家族との食事と一緒にできるようになりました。私自身も焦る気持ちが無くなっていききました。やがて主人と私、長男の3人で、法座の前日に亀岡の家の掃除をするようになり、暑い日、寒い日も親子3人で楽しく掃除ができました。親子で一つのことを一緒にできる満足感は大きなものでした。

長男は苦しい葛藤の中、あるひきこもり体験者の方とご縁をいただき、手紙のやりとりができるようになりました。その方が自宅に訪問してくださるようになり、信頼関係が芽生えたのでしょうか。やがて自由に外出できるようになりました。変化の菩薩さまでしょうか。すべて三徳のみ教えのお陰と感謝いたしました。そのお徳をいただけた感謝の気持ちを日達上人にご報告申し上げたところ、日達上人は「ああ…。そうかね…。いろんなことがあっても待つということが大切なんだ」とお教えくださいました。

息子と2人で普通にバスに乗り、コンビニでおにぎりを買い、初めて外で並んで食べた時、うれしくてうれしくて涙が止まらなかつたことを今でも温かく思い出します。

長男は今、仕事に就き、家庭をもち、2人の子の父親となりました。この御法にご縁をいただき、三先師、日達上人、山首上人さまのお徳を頂戴し、たくさんの方の励ましにより私も長男も育てていただきました。これからも感謝を忘れず、一日一日精進していきたいと思います。



あなたも 法音寺メールマガジンに 登録してみませんか？

このたび法音寺では新たなメールマガジンの無料配信サービスを開始することになりました。毎週火曜日の朝7時に、山首上人のみ教えや毎月の予定、人にやさしく生きていくためのコツなどを配信します。



登録手順

1

お手持ちのスマートフォンで、下記のQRコードを読み込み、法音寺メールマガジン登録フォームにアクセスします。



メールマガジン登録フォームはこちら ▶▶▶

2

「メルマガ登録・解除」でメールマガジンを受け取りたいメールアドレスを入力し、「送信」ボタンを押すか、もしくは、空メールを送ると登録完了となります。

3

登録されると自動返信メールが届きます。届かない場合はメールアドレスが間違っている可能性がありますので、再度登録を行ってください。

※今回のメールマガジンは、以前「今週の言葉」にご登録いただいた方には手続きなしで配信されますが、従来の携帯電話では対応できない場合があります。解除にお困りの場合、hounji@plum.ocn.jp宛に「解除希望」の旨、メールでご連絡ください。

法音寺のパンフレットができました

多くの方に法音寺を知っていただくために
お使いいただけます。

是非ご利用ください

掲載内容

心に寄り添うお寺と仏教 … 仏教とは？ お寺とは？
信仰と福祉のお寺 … 法音寺の理念・歴史のご紹介
仏教福祉と社会貢献活動 … 福祉事業・教育のご紹介
法音寺とのお付き合い … 年間行事・日々の活動・供養のこと
法音寺のご案内 … 支院一覧・関連書籍・ホームページ等



福祉に 生ききる

特集

第10回

昭徳会児童養護の実践発表

◆駒方寮

幼児ソーシャルスキルトレーニング (SST)の実践

〈現状と今後の課題〉

駒方寮長 濱田 光男

「ソーシャル・スキル」とは、端的に言えば、『社会生活を送る上で他人と付き合っていくための技術・社交術』であり、『集団行動をとったり人間関係を構築したりする上で必要な技能のこと』で、これが身につくように訓練・練習することを「ソーシャル・スキル・トレーニング」(以下、SST)と言います。これを取り組み始めた背景には、児童養護施設で生活する子ども達の特徴が関係しています。

社会福祉法人昭徳会

福祉実践発表会

それは、子ども達の6割が虐待経験(子ども達が信頼を寄せ、安全基地となるはずの親から見放されたり裏切られたと感じたりするような経験)を受けてきているため、人への信頼感の低さや自尊心が育まれず、年齢相応の社会的スキルが発達しにくいことが挙げられます。

具体的にはどのような進めているのかご説明します。平成28年度は1年間を3つの時期に分け、3つのルール(①手を挙げて話をする②相手の目を見て話を聴く③話に割り



「込まない」を挙げ、集団生活の中で職員が捉えた子ども一人ひとりの苦手さを目標として設定し進めました。しかし、「個人目標を子ども自身が認知していない」「子ども達自身が自分達の抱える感情の名前を理解していない」といった課題が浮上したため、平成29年度は「子ども自身が決めた目標を生活でも意識しているか」「学習した基本スキルを生活でも意識しているか」「表情と感情の名称が一致するように進めてきているか」と、評価するポイントを変更した上で進めてみました。その結果、「目を見て話す」「お話を聴くときは静かになる」「頑張り表」を用いたことで生活意識できるとほめられる「頑張り表」をういたことで生活場面でも目標が維持されたこと、さらに「表情カード」を作成し毎回尋ねていくことで正しい理解が深まりました。さらに、ほめられた経験を形に残す「ほめカード」を渡すことにより、お友達の良い姿を見つけられるようにもなりました。

今後の課題・展望としては、子ども達のより良い成長を期待し、生活とどのように連動させていくかを考える必要があります。参加職員も2名と限られており、口頭では伝えきれないことがあります。個人目標達成の評価基準も曖昧でした。一方で、取り組みを通して子ども達が獲得できたこと：社会的なルールを学び続けていること（我慢が必要な場面で自制できること等）を目の当たりにし、子ども達の成長に驚かされました。今後も、楽しい時間を共有し

ながら良い成長を促していけるよう関わっていきます。

◆名古屋養育院

おいしく学ぶ自立への道

卒院生から教えてもらったもの

自立支援担当職員 松岡 由貴

当院は定員53名の大舎制の施設で、食事は調理員さん方が作ってくださったものを縦割りの班ごとに食堂で食べています。そのため食事風景は大家族のようですが、厨房で食事を作っているため調理する姿を子ども達が目にするのではなく、幼児期から入所している子の中には生米や生肉、生魚を見たことがない子もいました。すると、卒院した子ども達から「もつと料理の仕方を教えてほしかった」「学校の調理実習で自分だけ何もできなくて恥ずかしかった」との声があり、子ども達の自立支援のためにも約13年前から「調理体験」という取り組みを始めました。

しかし「もつと料理を教えてほしかった」という声を聞くまでには色々なことがありました。当院で生活している児童の入所理由は過半数が保護者からの虐待で、食事の時に暴力を受け、食事自体がなかったことで「食事」に対してマイナスの感情を持っているケースが多かったのです。そのため、子ども自身は無意識の状態であっても食事中に

座ってられない、嫌いな食事が出ると投げ捨てることで拒絶をしていました。さらに、子ども達は大人への不信任感が強く、大人が作った食事すらも食べられず、大切に育ててもらえなかったことでその子自身も他人や物を大切にできませんでした。そのため、そんな環境を改善するために子ども達と話し合い、食事の席を幼児から高校生までの縦割り班に変えていきました。すると、縦割り班にすることで大きい子が小さい子と多く関わるようになり、施設で生活していくうちに虐待経験を乗り越えた子ども達が職員を助けてくれるなど行動にも変化が現れ、ようやくそこで「料理を教えてほしかった」という声を聞くことができました。

最初の調理体験では、幼児から高校生までを縦割り班で分けて、毎月1班ずつ全員が取り組めるようにし、固定メニューで行っていました。調理をする機会は年に1度でしたが、それでも私達職員にとっては大きな一歩となりました。



た。

数年後からは各班固定だったメニューを班ごとに話し合いをして、別の料理を作るようにしました。しかし、自由に料理ができることで班ごとに「自分の班が一番すごい」と、張り合うようになってしまいました。

現在では幼児、小学校低学年、高学年、中学生のグループを作り、高校生は職員と一対一で取り組むことにしました。実際に調理を体験した子ども達からは「自分で作ると大変」「家に帰ったらお母さんに作ってあげたい」という言葉を聞くことができたので、今後も自立を見据えつつ、子ども達により良い方法を探したいと思います。

私達の支援にゴールはなく、調理体験だけでなく日々の生活の中でも子ども達の未来につながるような質の高い支援ができるよう日々模索していきます。

◆名古屋若松寮

ホーム調理をめざして

より良い食育に向けて

児童指導員 安藤 香苗

名古屋若松寮では、今年度が初の福祉実践発表会となりました。選んだテーマは「食」。ほかにも名古屋養育院が同じ食育に関するものですが、若松寮として、現在行っ

ている取り組みを発表しました。

名古屋若松寮は平成28年度より、名古屋市から昭徳会に運営を移管された施設です。ユニット制を取り入れており、A～Dのホームと呼ばれる4つのユニットにそれぞれ8名、幼児から高校3年生までの子ども達が男女別で生活しています。現在の若松寮での食事は、①管理棟にある調理場で調理員が料理し、②完成したおかずを各ホームの職員と子どもで調理場まで取りに行き、③各ホームで職員と子どもが食器に盛りつけ、配膳してごはんを食べる流れなので、これまで子ども達は直接、食事が調理される過程を見ることがありませんでした。

私達はこの、直接自分の目で料理ができる過程を見ずに、施設で子どもが育つことを問題点と考え、調理場で作った食事の提供ではなく、現場で調理してその場で食べる、「完全ホーム調理」をめざして6年計画を立てました。計画では、まず環境整備に始まり、次に調理員によるホーム調理、そして現場職員によるホーム調理を段階的に行っていく、最終的にはすべての食事や弁当づくりを各ホームで、現場職員が調理員と協力して行うよう目標を定めています。平成29年度は環境整備として、古くなっていた鍋やフライパンなどを買い換えました。また月一回の、現場職員によるカレー作りや調理員によるホームでの調理を実施しています。

今まで料理をしなかった環境から、間近で料理が作られ

る経験を通じて、子ども達も調理の楽しさやありがたさを少しずつ感じるようになってきているようです。中にはもちろん、調理に興味のない子もいますが、職員から「子ども達が食材の値段を気にするようになった」「お手伝いの機会が増え子どもの活躍の場が増えた」など、肯定的な意見が多く聞かれています。ただ職員の中でも、「食事を作ることで精いっぱい」という意見もでてきているため、その改善に向けて空き時間に調理員と料理の練習ができるようにしたり、現場調理の日には職員体制に余裕を持たせたり、ホーム間の協力体制を強化したり、研修でスキルアップを図ったりと、職員が不安なく現場調理に取り組めるよう試みている最中です。

この6年計画で、調理を通して子ども達の心を豊かに育てていくことを目標にしています。家庭的な養護の実践が求められる中、子ども達の自立支援の意味合いも込め、食を通して成長できるような支援をこれからもめざしていきたいと思います。



平成30年度 辞令交付式



写真提供・昭徳会

例年になく、桜の開花が早く、やや散り始めとなりました4月2日（月）、法音寺本堂にて「平成30年度、昇任職員・新規採用職員辞令交付式」が執り行われました。

今年の新人職員は38名で、多くは緊張した面持ちで会場に入りましたが、リラックスした雰囲気であった職員もおり、同期で親しげに話す光景はとても心地良いものでした。

開式にあたり、鈴木理事長（法音寺山首上人）より、新人職員へ歓迎の辞が述べられました。

「わが昭徳会は、単に人手を求めているのではなく、今後、この法人を大いに発展させ、より一層、社会全体の福祉に貢献できるよう全力を尽くしてください。熱意にあふれた人材を求めています。昭徳会の基本理念は『幸福』です。遠い昔、ギリシアの哲学者アリストテレスは言いました。『我々の達成せんとするあらゆる善きものの中の最上のもは何であるか。その名目については、たいがいの人の答えはほぼ一致する。すなわち、一般の人々も、たしな

みある人々も、それは幸福にほかならない』これは今も昔も変わりません。現在、最先進国である日本の中で、その幸福を享受できていない人が多数おられます。そういう人々に慈愛の手を差し伸べるのが皆さんのこれからの仕事です。何事も意欲をもって当たれば、自ずと知恵も湧き、道も開けてくるものです。また、そうした歩みの一つひとつが、人生の貴重な経験となり、人格陶冶につながっていくものです。どうか、前向きな心構えを持って力強く前進してくださいることを切に願っております。また、何と言いましても心身ともに健康が第一です。身体は もちろん心の健康にも充分気をつけていただきますよう、お願いいたします」

その後、理事長より一人ひとりに辞令が手渡されました。この度昇任した職員は、あふれんばかりの喜びとともに、その責任の重さを実感する機会となりました。そして、新人職員は、昭徳会の職員となったことへの感激を胸に、気持ちを新たにしているように感じられました。

続いて、新人職員を代表し、大平菜々美さん（小原学園配属）が誓いの言葉を述べました。

「ただ今、理事長先生より、温かい励ましの言葉をいただき、新人職員一同心より感謝するとともに、身の引き締まる思いでおります。昭徳会は、創立以来、福祉に真摯に向き合い、社会貢献度の高いすばらしい法人であると思っております。そのようなすばらしい法人にて、強い使命感をもって仕事に取り組めることに喜びを感じています。106期生としての誇りを持ち、事前の研修で学んだ『行動指針』や『思いやり』を大切な価値観とし、自立した社会人になれるよう努力いたします。また、何事にも積極的に取り組み、向上心をもって邁進していくことをここに誓います」と力強い言葉で締めました。

辞令交付式を終えた新人職員は安堵した表情で会場を後にしました。今日決意した気持ちを忘れず、昭徳会で活躍してくださいることを期待しています。

法人本部署務局 人事部長 制野 司

福祉の ひろば

児童養護施設の現場から

「日常生活がもたらす安心感」

児童養護施設に入所する子どもの中には、その日暮らしの生活を強いられてきた子どももいます。今回はあたりまえのように過ごしている日常生活が与える影響について考えます。

『5歳のタロウくんが施設に入所して1年。入所した当初は生活リズムがなかなか整わず、朝寝坊して朝食に間に合わないことがありました。毎朝決まった時間に職員がタロウくんを起こし、タロウくんが顔を洗っていると台所から包丁の音が聴こえてきます。そして食卓の席につくと温かいご飯が出てきて、生活をともにする子どもや職員と一緒に食卓を囲みます。そうした朝の過ごし方が毎日繰り返されるうち、タロウく

んは朝起きたら顔を洗い、トイレを済ませて食卓へ向かうことが自然と身につきました。また、幼稚園に行く時間までに準備をするなど、先の見通しをもって行動できるようになり、生活全体に落ち着きと安心感が出てきました』

それまでの生活体験で、食事をきちんと摂る習慣がなかったため、食卓に座ってられない、年齢相応の学力が身につけていない、入浴の習慣がなく、きちんと身体を洗えないといったことがいます。毎日決められた場所決められたことをする「日課」と異なり、「日常生活」とは、日々の出来事や子どもの体調などにより柔軟性を持ちながら、同じリズムで淡々と流れるもの

です。〃起床・登校・入浴・食事・学習〃など、就寝時間以外はある程度の幅を持たせ、〃時間をみて子どもが自主的に行動できる生活〃になるよう工夫することが必要です。

例えば、物を大切にしない子どもに〃粗末にしてはダメでしょう：物は大切にしなさい〃と教える前に、「この子は大切にされた実感を持って、〃自分は大切にされている〃って思ったのはどんな時？」と質問してみると、「そんなことは一度もない：私はいつもダメな子だった」と悲しそうに話すかもしれません。その場合、この子に必要なのは〃しつけ〃ではなく、生活を〃通して〃大切にされるとはどういうことなのか〃を実感してもらうことなのです。

ただの掃除や洗濯と思われがちな家事も、子ども達を養育していく上ではとても重要な意味を持ちます。生活空間を清潔に保つために、大人が掃除しているのを見ることによって子ども

達は、過去に体験したであろう生活とは異なる方法・形を学ぶことができます。毎日きれいに洗濯された衣類がきれいに畳まれることで、その衣類に袖を通した時に感じられるうれしさがありません。引きっぱなしの布団で就寝するのでなく、お日さまの匂いがする布団で眠るからこそ感じられる温かさがあります。

朝起きて顔を洗い、朝ごはんを食べ、歯磨きやトイレを済ませてから登校する。帰宅後は宿題をしてから友達と遊び、夕食を食べてからお風呂に入り、就寝する。そんなあたりまえの生活を家で経験したことの無い子ども達がいまいます。彼らにとってこれまでの生活は、毎日何が起これるか分からない：一日の見通しも立ちにくいものだったと言えます。そうした生活を送ってきた子ども達に、見通しを持った生活を体験させていくことが大切です。それは、普段の何気ない日常生活がもたらすものなのです。

*参考：『よくわかる社会的養護内容』（ミネルヴァ書房）

東北被災地での支援活動

「日本福祉大学災害ボランティアセンター」第14次「萩の花」プロジェクト



「特別養護老人ホームうらやす」で職員のお話を聴く学生達



津波の被害にあった「特別養護老人ホームうらやす」の様子

写真提供・日本福祉大学

未曾有の大災害であった東日本大震災から、7年が経ちました。

本学の災害ボランティアセンターは、震災直後の2011年3月31日、学生・教職員が一丸となって被災地支援に取り組むために発足し、4月末には、第1陣が宮城県に出發しました。この災害ボランティア活動を、当時の学生達が宮城県の県花「萩の花」にちなんで『萩の花プロジェクト』と命名し、以来、夏休みや春休みを中心に、継続的に支援活動に取り組んできました。

14回目となった今回、3月6日から11日まで、社会福祉学部、健康科学部、スポーツ科学部、国際福祉開発学部、看護学部の学生と引率教員が、石巻市や名取市を中心に活動を行いました。

被災地に行くと、復興の過程に伴い毎回変化があります。今回は7年が経過したことを痛切に感じさせることがあります。それは、これまで関わってきた活動拠点『あがらいいん』（宮城県石巻市）の閉鎖です。

あがらいいんとは、地元の方言で「部屋にあがって、ゆっ

くりして」という意味で、支援や援護が必要な被災者を受け入れてきた仮設の施設です。ピーク時には3千人以上が生活したといわれる被災地最大の仮設団地の中にあり、この仮設団地はこの数年間で順次縮小され、今年の秋には閉鎖される予定で、その中にあるあがいんも、ひと足先にこの3月末を持って閉鎖となりました。

学生達は毎年ボランティア活動をさせていただき、仮設住宅での生活がむずかしくなった高齢の被災者や、公的な福祉制度の対象外となつて支援が届かず、生活再建への手がかりを失っていた被災者などの支援活動から多くのことを学びました。最終回となつた今回、スタッフの方から、移り変わるニーズに対応した支援の重要性や、日常の減災の取り組み、まちづくりの課題などのお話をうかがい、7年経過した被災地の課題に向き合いました。

また今回は、震災後本学の第1陣が現地に赴いた際、最初に瓦礫撤去のボランティア活動をした場所である「特別養護老人ホームうらやす（以下、うらやす）」も訪問し、当時の状況や、復興の過程と現在の課題などについて学びました。

宮城県名取市の沿岸から1キロの場所にあつたうらやすは、震災で建物は瓦礫に埋まり利用者・職員47名

が犠牲になられ、甚大な被害を受けられました。2013年に新しい場所に移転し再開されましたが、今も当時の場所には、大人の背丈を越えた津波の跡が残る建物の一部が残されています。

私も7年前の当時、本学の学生として活動に参加させていただきました。海水に浸つた畳や椅子、ベッドなどを施設の外に運び出すとともに、被害に遭われた皆さまに思いを寄せながら、利用者の方々の思い出の写真や記念品などを集める「大切なもの探し」に取り組んだ経験は、今でも忘れることはありません。

学生は被災した当時の施設の場所に立ち、建物の痕跡から被害の甚大さを目の当たりにし、改めて地震・津波の威力と、避難の課題を痛切に感じ取つたようです。

被災地の復興の状況はさまざまで、形を変えて新たな課題が生じています。今後も引き続き、思いを寄せ続け、忘れない」ということを形にし、支援活動を継続していかねければなりません。また、被災地支援に加え、被災地から学んだことを、大学のある美浜町や半田市・東海市など地元での防災・減災活動にも生かして、取り組んでいきたいと考えます。

今年も多くの新入生を迎えて、新たな活動がスタートします。

学生課 富田 貴寛



幸せの種まきⅡ一人が一人を

世の中のことは、
善い面と悪い面がありますが、
善い面をとらえていくことが大切です。

同じことに会っても、
困った。苦しいと
思えば苦の世界となりますが、別の角度から見
て「ありがたい」と思っていけば、本当にありがた
いことになります。

大乗山 法音寺



編集後記

今月はいよいよ御開山会が始まります。三徳
開教百年をお祝いする記念法要と顕修院日達
上人第七回忌法要が営まれるとあって、編集部
はいつも増して気が引き締まります。山内では
参詣される皆さまにどうしたら喜んでいた
だけだろうと、さまざまな意見が交わされ
ていました。その甲斐あって、さまざまな工夫
が各所に凝らされているとのこと。とても楽し
みですね。当日はたくさんの方々の笑顔にあふれるこ
とでしょう。

お寺に来ると凜とした空気の中、心静かに手
を合わせることで心が洗われ、ご法話を通して
日々の暮らしの中で、見落としている部分に気
づかされます。時にお寺は「心の病院」と表現
されることもあります。罪障という心の問題を
発見し、徳積みという治療法を教えてくれる場
所。家族が病気になるばホームドクターが必要
なように、心が不安定になればいつでも良心的
に相談のついでいただける。お寺の魅力はそう
いうところにあると思います。

この度、「信仰と福祉の寺 法音寺」という
パンフレットが完成しました（P75参照）。お
知り合いやお友達に法音寺を紹介される際に、
ご活用いただければ幸いです。



ど り よ く け っ か 努力の結果

竹中 淳

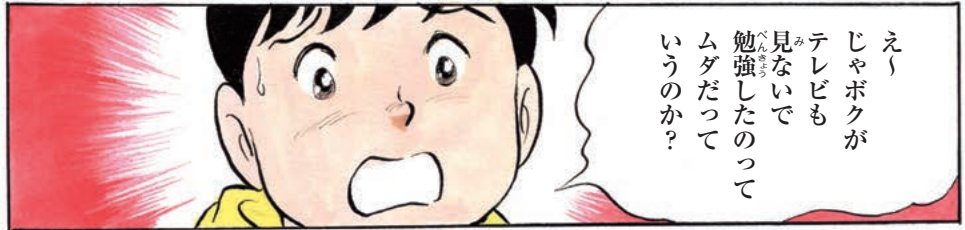




もって生まれた
才能ってあるだろ？
さいのうが
才能ないヤツが
どんなに
頑張ったってムダさ



70点！
いい
じゃん
なんでだろ？
あんなに
勉強したのに



えー
じゃボクが
テレビも
見ないで
勉強したのって
ムダだって
いうのか？



ホラ！
あの子、塾も
行ってないし
できる子は
頑張らなくても
できるんだよ



家でよく
勉強する？
宿題だけよ
あとはずーっと
ゲーム！



ムダとは
いわないけど…
ねえ
ケイちゃん
何点？
95点よ



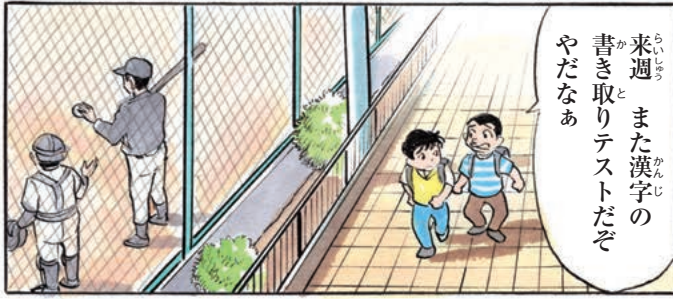
そんなこと
いったら
何もやる気に
ならないじゃ
ないかあ



やるだけ
ムダ
ムダ！
なにやっつてんだ
あんなにじゃ
何年かかっても
できねえな



ねえ、外見て！
あの子いつも
逆上りの練習
してるけど
あれもムダ？



来週 らいしゅう また漢字の
書き取りテストだぞ
やだなあ



練習は
ウソを
つかないぞ

もう
いっちょ

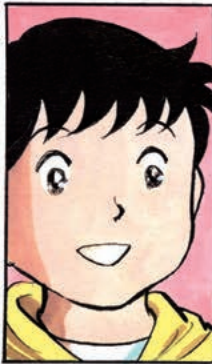


カラダで
止めろ！



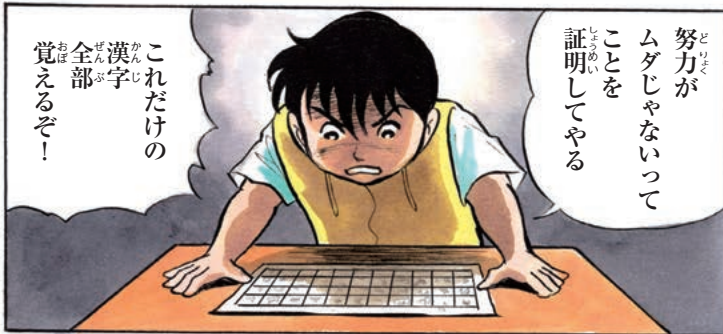
じゃあな

おい
どうした？



はい！

いいか
カラダで
覚える！



これだけの
漢字
全部
覚えるぞ！

努力が
ムダじゃないって
ことを
証明してやる





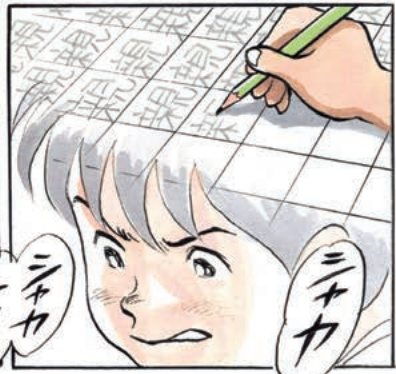
よし



カラダに
漢字を
覚えさせてやる



書いて書いて
書きまくって

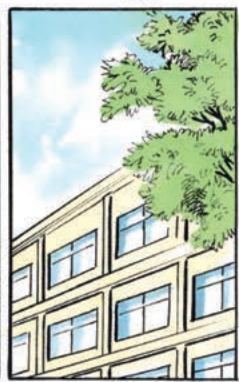


気が散る！
話しかけない
でくれ

何してんだ？



連休みだ
サッカーやろ！





おお 鬼気
せまるものが
あるな...



ボクが
「努力すればできる」
ってこと証明するんだ

どうしちゃっ
たんだ？
昼休みみだぞ



そんなつもりで
いったんじゃない
けどな

おおい
オレ...



蓮...



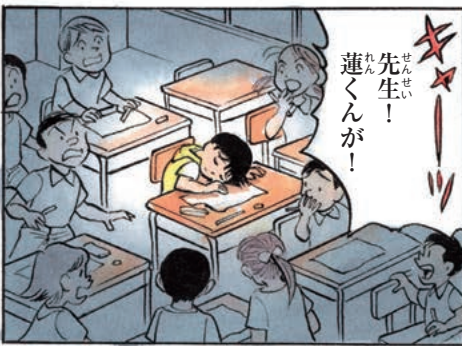
いいぞ
いい感じ
だ



やるだけやった
あとはこのカラダが
覚えているはず...



6時間目は
漢字のテスト
です





ボクの3日間の
努力はまったたくの
ムダに終ってしまった

とうぜん
テストの成績も
予想できた



3日間あんなに
勉強したのに
テストの途中で
リタイアかあ



はい
シッパしたから
大丈夫！
蓮くん放課後まで
休んでなさいよ



けんしょう炎ね
何したの？



あたし
本当に驚い
ちゃったわ

うん



蓮くんだ
大丈夫
だった？



大丈夫
だよ

ランドセル
持つてやろうか



もう
帰れるぞ

蓮
掃除当番だろ？
オレかわりに
やっといたから



タケル
見て！

？



あんなこと
いって
ゴメン



オレ
蓮に
謝りたいんだ



ムダな努力は
ないって…



あの子の鉄棒を
見てて思った



おしまい

書籍のご紹介

法音寺を
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均九六頁総カラゝ

定価各巻一、〇〇〇円(税別)

法音寺の教えを
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三四五頁

定価八〇〇円(税込)



続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三五二頁

定価八〇〇円(税込)

仏教を
学びたい方へ



鈴木修学先生の
南無妙法蓮華経

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判/二百二頁

定価一、八一四円(税込)



妙法蓮華経略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版/八六三頁

定価六、〇〇〇円(税込)

福祉を
学びたい方へ



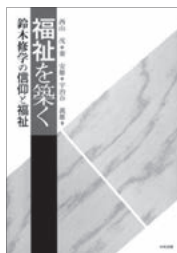
日本の福祉を築いた
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版/一六八頁

定価八六四円(税込)



福祉を築く

西山茂・秦安雄／
宇治谷義雄著

中央法規出版刊

A5版/二二三頁

定価三、六二八円(税込)



知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL (052) 831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくて異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL (0569) 87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成30年5月号・No.583・平成30年5月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社